あかね雲

和泊町立和泊中学校　TEL 0997-92-0030
学校だより７月号　HP　右のQRコード より閲覧ください
令和8年7月16日

量と質

校長　税所　篤哉

サッカー・ワールドカップが盛り上がりを見せました。日本代表チームの応援で熱くなった人も多いかと思います。今回のワールドカップの中継で解説者としてテレビ出演していた，本田圭佑（ほんだ　けいすけ）選手の言葉を紹介します。本田選手自身も，日本サッカー界を代表する選手の一人で，日本代表選手として3回W杯出場するなど，活躍しました。現在は実業家としても活動しています。

本田選手は，あるインタビューの中で**「量をこなしていない人に，質を語る資格はないと思う」**と語っています。

現代では，「タイムパフォーマンス（タイパ）」や「コストパフォーマンス（コスパ）」といった言葉が流行し，できるだけ少ない時間や労力でいい結果を得ようとする風潮があるように感じます。しかし，本田選手のこの言葉を聞くと，質の高いプレーや仕事は，膨大（ぼうだい：量や数が多く，規模や内容が非常に大きいこと）な練習や経験という「量」の積み重ねがあって初めて生まれるものだ，ということを改めて感じさせられます。どれだけ優れた才能（質）があっても，その才能（質）を開花させるためには，自分ができる最大限の努力（量）が不可欠だ，ということだと思います。

皆さんが日々の勉強や部活動で自分の「質」を高めたいと思っても，いきなり高いレベルの「質」を手に入れることはなかなか難しいことです。まずは，がむしゃらに，自分の限界を知るまで，「量」をこなしてみることが必要なのではないかと思います。地道な努力の積み重ねの先に，どうすれば「高い精度のシュートが決められるのか」「効率よく単語を覚えることができるのか」などという「質」の部分が徐々に見えてくるようになるのだと思います。

本田選手自身も小さい頃から「時間があったらボールを蹴ったり，体幹を鍛えたり」を意識して，行動（量）を積み重ねていたそうです。また，本田選手は**「挫折（ざせつ）は過程。最後に成功すれば，挫折は過程に変わる。だから，成功するまであきらめないだけだ」**とも語っています。挑戦には失敗がつきものです。しかし失敗しても，時間がかかっても，成功するまで挑戦し続けてきたことが，自分自身の成功のカギだと語っているのです。



※　挿絵はMicrosoft Copilotを利用して作成したAI生成イラストです。

中学生の時期は，将来の夢や目標に向かって様々なことに挑戦できる貴重な時期です。周囲の評価をはねのけるくらいの圧倒的な練習量や，がむしゃらに取り組む時間で，自分の心に決めた夢や目標という高い質を追求してほしいと思います。

明後日からの夏休み，安全に楽しく，有意義にすごしてください。

校内弁論大会



７月７日（火），校内弁論大会を行いました。学級弁論大会で選ばれた各クラスの代表１２名が，堂々と自分の考えを述べました。

※　裏面の発表原稿をご覧ください。

最優秀賞：（1-1）「一つの工夫と溢れる笑顔」
優秀賞：（3-2）「自分だけの空の色」
優秀賞：（3-1）「幸せの数を数えてみると」

和中郷中



７月１０日（金），和中郷中を実施しました。

３年生が１年生に数学と英語を教え，学年を越えて学び合う時間となりました。

優しく声をかけながら教える３年生と，真剣に耳を傾ける１年生の姿が見られ，和中生の温かなつながりを感じる心温まるひとときとなりました。先輩から後輩へ受け継がれる思いやりの心も感じられる時間でした。

保育園実習（家庭分野）



６月３０日に３年１組，７月１日に３年２組が「認定わどまり子ども園」で保育体験学習を行いました。

園児と一緒に遊んだり，声をかけたりしながら交流を深め，幼児の発達や成長について理解を深めることができました。また，相手の気持ちを考えて関わることの大切さを学ぶ貴重な機会となりました。

認定わどまり子ども園の先生方，園児の皆さん，ありがとうございました。

ＰＴＡ（一学期）



７月３日（金）に授業参観，学級PTA，学校保健委員会，家庭教育学級を実施しました。ご多用の中，多くの保護者の皆様にご参加いただき，ありがとうございました。

学級PTAでは１学期を振り返り，夏休みの過ごし方について確認しました。また，学校保健委員会と家庭教育学級では，子どもたちの健やかな成長につながる貴重なお話を伺うことができました。学校と家庭が子どもたちの成長を支える大切さを改めて感じる有意義な時間となりました。ありがとうございました。

第1回学校運営協議会



７月８日（水）に第１回学校運営協議会を開催しました。

委員の皆様に普段の授業を参観していただいた後，本校の教育活動や学校運営について協議を行いました。

学校の取組への理解を深めていただくとともに，貴重なご意見をいただく有意義な機会となりました。今後の教育活動の充実に生かしてまいります。

和泊中学校学校運営協議会委員		
本部　さん	和　さん	伊集院　さん
宮原　さん	徳　さん	玉利　さん
町田　さん	山田　さん	美野　さん
税所　校長		計　10　名

８月行事

日	曜	主　な　行　事
11	火	リフレッシュウィーク（～17日）
12	水	学校閉庁日（～14日）
21	金	出校日，夜間巡回指導（3-1）
22	土	夜間巡回指導（3-2）

学校評価（一学期）

先日，１学期の学校評価を保護者の皆様に行っていただきました。たくさんのご回答，ありがとうございました。結果につきましては真摯に受け止め，改善に活かしていきたいと思います。（評価は４段階）

	質問項目	平均評価
1	学校は，一人一人を大事にし，熱意を持って教育に取り組んでいると思いますか。	3.32
2	学校は，ICT機器の活用等，学習指導の充実を図り，生徒の学力の定着に努力していると思いますか。	3.12
3	学校は，生徒の心身の健康に留意し，体力向上と健康教育に努力していると思いますか。	3.27
4	学校は，よく整理整頓され，環境が整っていると思いますか。	3.46
5	学校は，子どもたちの教育活動の様子をわかりやすく伝え，家庭や地域に開かれた学校づくりに努力していると思いますか。	3.26
6	お子さんは，「夢」や「希望」をもって生活していますか。	2.97
7	お子さんは，家庭学習の取組である「マイゴールチャレンジ」などを通して，自分に合った学習目標や計画を立てて，家庭学習に取り組むことができましたか。	2.55
8	お子さんは，だれに対しても思いやりと感謝の気持ちをもち，ともに協力して物事に取り組んでいると思いますか。	3.10
9	お子さんは，元気な声で進んであいさつをし，規範意識を持って生活をしていると思いますか。	3.00
10	お子さんは，基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）や心身の健康に努めていますか。	3.09
11	お子さんは，家庭での自分の役割を自覚して取り組み，地域での活動に参加していますか。	2.88

沖高体験学習



７月９日（木）に３年生全員が沖高体験学習に参加しました。５教科の体験授業や高校の授業参観，校内見学，部活動見学を通して高校生活への理解を深めました。本校卒業生の生き生きとした姿にも触れ，将来への夢や希望を膨らませる貴重な機会となり，キャリア教育の一環として進路意識を高める一日となりました。

９月行事

日	曜	主　な　行　事
1	火	始業式
2	水	島内実力・実力テスト（～3日）
4	金	ＳＣ来校
5	土	沖中体連駅伝
6	日	ＰＴＡ奉仕作業
8	火	芸術鑑賞
9	水	ＳＣ来校
17	木	ＳＣ来校
24	木	体育大会予行
27	日	第79回体育大会（雨天28日実施）
28	月	振替休日
30	水	ＳＣ来校

「一つの工夫と溢れる笑顔」

皆さんは，ユニバーサルデザインを知っていますか？ユニバーサルデザインとは，「誰もが分かりやすく，使いやすい設計」のことです。私は，ユニバーサリーデザインについて，「一部の人のためだけの特別な配慮ではないと考えています。旅行先や外に出かけたときに，障害を持った方を白い目で見ている人を見かけたことがあります。そんな人達を見て私はとても嫌な気分になりました。他の人と大して変わらないのに，「私たちとは違う」と差別しているように感じたからです。私は，一人ひとりが自分らしく生きていけるような世界が実現できるといいなと思っています。

私には，足が不自由な祖母がいます。だから，そんな祖母が少しでも生活に苦労しないように，なにか工夫できることがないかと，考えていました。そんな中，私が出会ったのがユニバーサルデザインでした。ユニバーサルデザインは，「誰もが理解しやすく，使いやすい設計」「最初から利用しやすく，安全で快適な環境やモノづくり」を実現することを目指しています。ユニバーサルデザインにはいくつもの種類があるのを知っていますか？例えば点字ブロック。皆さんも見かけたことがあると思います。なんの変哲もないブロックに見えますが，地面にならんだあの黄色のブロックには，とても重要な役割があります。点字ブロックは，目の見えない方の道しるべの役割を担っています。点字ブロックがなければ，目の見えない方々からすると，真っ暗闇を明かりもなしに歩いているようなものなんです。そう考えると，とても重要だと思いませんか？

他にも，階段とスロープが両方設置された施設。このスロープがあることで車椅子の方やベビーカーに赤ちゃんを乗せたお母さん，足が不自由な私の祖母にとって，とても便利な工夫なんです。もし，階段のみだった場合，車椅子の方や，赤ちゃんを連れたお母さんには，とても不便です。なぜだか分かりますか？スロープがなければ車椅子の方は，施設等の立ち入りそのものが不可能になります。私の祖母も以前，階段でつまづきかけ，とても危ない目に合いました。障害や怪我を負った人，そして車椅子の方々などにとって，スロープにも重要な役割があるんです。祖母もスロープがあると「ありがたい」と口にしていました。

ここまで，ユニバーサルデザインの工夫，そしてその役割について話してきましたが，実は障害を持っていない人，私達だって簡単に利用することができます。例えば，私達が学校でも使用しているシャープペンシルにも工夫があるんです。今日紹介するのは，三菱鉛筆の「クルトガ」です。クルトガは，筆圧の強い人でも，シャーペンの芯が折れにくく，握力の弱い人でも字が薄くならないようにつくられています。他にも，「歩道の切り下げ」というものがあります。切り下げとは，自転車が歩道にも入ってくることができるように，車道と歩道との間を，ゆるやかな坂にしているところのことです。この和泊町にもその工夫があります。

このように，普段使用している物の中にもユニバーサルデザインが隠れているかもしれません。障害のない人達でも分かりやすく利用しやすいユニバーサルデザイン。本当に「一部の人のためだけの特別な配慮」だと思いますか？

ユニバーサルデザインを通して，差別がなくなるともっとより良い社会になると思います。

誰もが自分らしく，笑顔で過ごすことのできる公平な社会をつくるために「誰か」ではなく，私達にできることを考えてみませんか？

幸せを数えてみると

みなさんは最近，自分の幸せを数えてみましたか？私たちはどうしても嫌なことや他の人の悪いことばかり数えがちです。しかし，ネガティブな言葉を口にしていると，心が暗くなり，悪い現実しか目に入らなくなってしまいます。

という言葉があるように，言葉には力がこもります。発する言葉が変われば，世界の見え方は変わるはずです。私はある出来事を通して，身近にある小さな幸福に気づくことの大切さを学びました。

私は最近，小さな選択のまちがえや不運が重なり人間関係や日々の生活のすべてが上手くいっていないように思え，自分に腹が立っていました。自分への苛立ちを他人には感じさせないよう，笑みを顔にはりつけて過ごす日々。すると，普段は聞こえない周囲の不満や愚痴，悪い言葉ばかりが頭の中に響いてそればかりを連想して考える自分がいました。自分の未熟さに落胆し，頭を抱えました。そんな時，笑い話として友達にこの話をすると彼女は，自分が嫌だと思っていたこの状況をポジティブに変換してくれ，さらい悪いことばかりに目をむけて気づけなかった日常の小さな喜びやハッピーなことに気づかせてくれました。彼女が発した「言葉の力」によって私の心が軽くなったのです。

「悪い現実から目を背けて無理に綺麗事ばかりを並べることはただの現実逃避だ」そう批判的に思う人もいるでしょう。確かに，悪い原因を見つめ反省し，自身を律することは成長に必要なプロセスです。しかし，悪いことばかりに心が奪われていては，周りの温かさやちょっとした優しさに気づけないままになってしまいます。

イギリスの思想家に「幸福の最大の秘密は自分自身と和解することである。」と言う言葉を遺した人がいます。完璧ではない自分を受け入れ，今ある本物の良いものに目をむけること。それこそが，私たちが前を向いて生きるための力になります。周りを見渡すと，誰かの陰口や物事の悪い側面ばかりが目についてしまう社会かもしれません。でも，だからこそ，意識して「幸せを数えてみる」のです。見方を変えれば，世界にはいっぱいの輝きが溢れています。みなさんも幸せを数えてみてください。

自分だけの空の色

井の中の蛙大海を知らず　されど空の青さを知る。

「自分らしさってあるのかな？」この問いは私の中で一つの課題でした。私は自分に自身をもてない。事あるごとに周りと自分を比べていました。あの子はエを描くのが上手だよね。走りが速いよね。勉強が得意だよね。そのような言葉を聞くたびに，私は「自分らしさ」について考えることがありました。

可愛いものが好き。これも「自分らしさ」のひとつじゃないの？そう思う人もいるかもしれません。

しかし，私は好きなもの＝自分らしさとは思えなかったのです。知って入るけど，詳しくはないし，得意ではないから。そう思っていたからです。

この考え方が変わるきっかけは二年生と3年生のときにありました。1つ目は，二年生のときにクラスの前でスピーチをしたことです。私は鶏が好きなので，鶏について話をしました。鶏は好きではあるものの，詳しくはないし，それに自分らしさとは何？と聞かれたときに，「鶏が好きなこと。」そう答えるのは少しズレているように感じたのです。後日，先生から「よく知っているね。あれは趣味の範囲じゃないよ。」そう言われました。私はそう言ってもらえたことが嬉しかったのと，「趣味の範囲を超えている。」と言われたことが強く印象に残りました。私はそのとき，「鶏について知っていること」は自分らしさなんだ。そう思うことができました。

もう一つのきっかけは，3年生になってから化学が好きになり，友達によく話すようになったことです。友達に「化学や鶏のはなしばかりでごめんね」と言うと「全然。だってそれがひなのでしょ？」そう言ってくれました。私はその言葉を聞いたときに，そんなふうに考えることもできるんだ。と新たな発見があったのと同時に，これは私の勝手な解釈ですが，「ひとそれぞれ好きなことは違うから，その違いも自分らしさになる。」そう言ってもらえたような気がしました。

私はこのような経験から，たった一つのことを突き詰めることは自分らしさにつながると考えます。

井の中の蛙大海を知らず。この言葉は，古代中国の思想書がもとに立って生まれた言葉です。井戸のなかにいるカエルは，外の世界を知らない。今では，自分の経験や知識には限界があり，世間や広い世界のことはよく理解していない人の例えとして使われます。ですが，この言葉には日本独自の続きがあります。

井の中の蛙大海を知らず　されど空の青さを知る

この言葉は日本であとから追加されたと言われています。たった一つの空を突き詰めたことによって，誰よりもその空の青さをカエルは知っている。

皆さんの思い描く空は何色ですか？青かもしれない。紫かもしれない。空に浮かんでいるのは飛行機ですか，雲ですか？皆さんの空はどんな姿をしていますか？

みなさんだけのたった一つのそらに，皆さんの自分らしさの答えがあると私は思います。